こどもの頃のむかしばなし

今坂柳二

いや、おらだけのことじゃありませんで、夜中に目が覚めちまってそのまんま朝になっちまうんです。

昭和十八年から二十年の古新聞、戸棚ん中から出てきたのさ。んでな、こりゃあ昔話しだ、七十年もの時が経ってんだもの。放っといて屑紙にする訳にゃあいかん、そう思って見せにきたんだ。中身は見ればすぐ分かる、こんなものだ（東京・日日・毎日・埼玉）。

一本のヒマも大事ぞ空の決戦・暮麺（蒸したジャガイモにウドン粉を入れる）・ヒバ材で木製軍用機の計画・熊笹でレタスの代用品を考案・青桐の実を食べよう・決戦だ 死力で敵へ体当たり・捧げた一生 挙げて必勝・頑張ればまだまだ出るぞ討つ力・いかせ廃品 殺せ米英・古着を活用 切符は無用・増産で農家も敵へ体当たり・一槌一鍬 敵撃つ心・もう一機殖す戦費だこの貯蓄・一億ががっちり組んで米英屠れ・増産は米英屠る勝ちどきだ・新世界築く土台は東亜から・胸打つ玉砕 身を打つ供米・決戦は一人一人の背に胸に・無いと思うな無駄と工夫・袖縮の出来た衣服で子を伸ばせ・勝ち抜く決意に解除はないぞ・心の長袖を切れ・一点節約 一機増産・米鬼英鬼をつぶす・藤蔓の皮で脚絆やゲートル・勤労精神徹底へ女将、芸妓等を練成・（決戦郷土食）馬鈴しょ飯・なんきん雑炊・馬鈴しょ団子・大和の茶粥・ふすま餅・楠公軍飯・菜飯・蓬飯・芋ねり・藷そばがき・とうもろこし団子・ひえめし・粕よせ・乾粉丸め、他・荒川河川敷七十町歩開拓・ヒエ千余石増産・出陣の金仏扶養・立木所有者に伐採売渡命令・十九年二月十六日〇〇中学校で日本刀の試し斬り。

まあ、こんなところですがな。びっくらこいたなあ「日本刀の試し斬り」さ、まさかいくらあんでもピッカピカの真剣を振り回したんじゃねぇだろうがよ、それにしても日本中気がふれたかって言われるような時代だったのさ。

いや、さすがの私も今夜はまた眠れなくなるかも分かんないなあ、ああこわい、こわい。

いまさか　りゅうじ
狭山市笹井在住。 二十四歳から俳句に関わって、現在同人誌「つばさ」代表。
かたわら、昔ばなしの採集・採話を続け、「龍じいの昔ばなし」以下十冊発行。

編集後記

文団連顧問で先日亡くなった小高さんとは、私が自治会の役員だった頃、地区の連合会長だった小高さんが声を掛けて下さり、それ以来の交際で、年が近かった関係で、文団連でも話し合う時が多く有りました。温厚、誠実な人柄で大好きな人でした。ご冥福をお祈り致します。

文団連新年度の役員が決まりましたが女性優位、若い男性の役員が欲しいですね。そんな中、私の属する狭山市民謡協会は会員が増え、団体会員の100名越えとなりました。高齢者の多い中ですが、会主会員共地道に頑張っている結果かと自負しています。

（髙沢正夫）